

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
編集事務局 編集部
〒450-0002 名古屋市
中村区名駅二丁目45-19
桑山ビル8階C号室
電話 (583) 19000番
FAX (583) 19100番
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印刷 株式会社 荒川印刷

理事長あいさつ



理事長
伊藤昌石

理事長を拝命いたしまして、もう三カ月が経過いたしました。

この間は日本列島に自然災害が多発し、火山の噴火、大型台風、ダブル台風、又、爆弾低気圧による堤防の決壊により広域浸水。自然の猛威の前に、人間の無力さを実感させられた気がいたします。

本会は去る六月二十一日に総会・第六十五回記念中日書道展表彰式を開催し、祝賀懇親会には一、二六名の参加をいただき盛大のうちに閉会する事が出来ました。お礼申し上げます。

本年度は役員改選の年で、表彰式・祝賀懇親会の前に開かれた総会后、「理事会」が開催され、不肖ながら私が理事長を拝命いたしました。誠に身の引き締まる思いです。理事長の名をけがさないよう、この二年間、一生懸命努めさせていただきます。

さて、今後の事業としては、書道教育研修会、公開講座、書展、愛のチャリティー募金、会員交流ボウリング大会など、目白押しに行事が予定されています。関係部署の部長、次長、委員も各事業の成功に向けてエンジン全開で頑張っております。

会員、協賛会員の皆様にも、こぞって参加頂きたいと思っております。又、本会の公益性を流布する為にも、友人、知人、一般の方々にも啓蒙して戴き、一般社会を巻き込んだ中部日本書道会になりますようお願いいたします。

本会は公益社団法人の認可を受けてから、四年の経過により、去る八月七日に内閣府から実地調査とご指導を頂きました。半日をかけて調査があり、その後、多少の改善案を頂きましたが、思っていたよりはスムーズに終了いたしました。改善案は次回の理事会で検討の上、皆様にご報告する予定です。

これからの諸行事もマンネリズムに陥ることなく、新体制のもと理事、企画委員の新鮮な意見、発案を重視して、新たな視野で企画、運営、実行を目指し、皆様方に喜んで頂けるよう努力して参りますので、今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次

- 1 理事長あいさつ
チャリティー愛の募金
- 2 第二十七回書道教育研修会報告
国内史跡探訪研修旅行(伊豆・駿河の旅)
- 3 第二十四回書展
- 9 第六十六回中日書さぞめ展作品集
- 10 第三十二回読売書法展入賞者
第六十七回毎日書道展入賞者
- 11 第十九回公開講座
ボウリング大会(案内)
- 12 新入会員 あとがき
- 13 支部だより(上半期)

「2015年 チャリティー愛の募金」について

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の福祉事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本会では毎年年末に「しあわせ薄い人々に愛の手を」をスローガンとして「チャリティー愛の募金」を行っております。

今年も、異常気象による集中豪雨により、各地では、床上浸水の被害や土砂で家が流されるなどの災害に苦しんでいる方々がたくさんおられます。

つきましては、本会役員の先生方並びに会員の皆様に広く献金をお願いし、中日新聞社会事業団・東海テレビ事業団(愛の鈴)への寄託をして参りたいと思います。何卒主旨ご理解の上、下記の通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この募金の締め切りを、平成27年12月1日(火)といたします。送付してあります振込用紙にてお願いいたします。

尚、献金の経過並びにご芳名は会報第179号(H.28.1.1号)でご報告をさせていただきます。

ご献金にお願いの基準

副会長、常任顧問、理事、監事、顧問	10,000円
参与、評議員	3,000円
正会員	1,000円

敬 具

理事長 伊藤昌石
渉外宣伝部長 岡野 楠 亭

第27回 書道教育研修会

日時 平成27年10月12日（月・祝）

場所 名古屋国際センター

第二十七回書道教育研修会報告

教育部長 後藤 啓 太

十月十二日（祝・月）、名古屋国際センター五階会議室に於いて四講座を開催しました。

講座の前に、関根玉振副理事長から、日本に古来から伝わる「入木抄」や「才葉抄」を例にあげ、書道の心得についてお話をいただきました。法帖や手本をよく見て繰り返し稽古し身につけることで、自分の個性ができていくこと。部分練習と全体練習の両方が重要であるということなど、日々の精進の大切さを改めて教えていただきました。

漢字の加藤矢舟先生は、「古典に学ぶ淡墨の小作品づくり」をテーマに、墨の磨り方、紙の話、筆の使い方と、受講生の席を回りながらの添削指導から、創作の実演まで丁寧にご指導下さいました。補筆のできない淡墨作品の難しさを受講生一同実感しました。

かなの村瀬俊彦先生は、「かな・あれこれ」というテーマで、いろいろな紙を使つての実演、筆や墨の細やかな解

説に、かなの奥深さを感じました。また、濃い色の紙に書く場合の墨色の注意点と、押印の上から金粉をふる技には受講生一同感嘆の声をあげました。

近代詩文書の武内峰敏先生は、「表現の可能性」をテーマに、金子鷗亭先生の「書の創作要訣二十章」と、武内幽華先生の自作句の小作品を参考資料として講義して下さいました。構成を変化させた草稿作りのヒントをうかがい、受講生の皆さんは実技では自由に書く楽しさを味わっているようでした。

篆刻の日比野妃扇先生は、「一文字刻印」をテーマに、受講生全員の名前を個々に印材に布字してお持ち下さいました。先生は石の扱いや印稿の裏字の入れ方など詳しく解説して下さいました。実技では、四十五度の角度に注意して押し刀で刻るのは難しく、受講生の皆さんは集中して刻っていました。

四講座とも先生方の丁寧な講義で、受講生の皆さんからは「楽しみながら実技も勉強でき、次回も参加したい」と嬉しいお声をいただきました。

講師の先生方に深く感謝申し上げます。会員の皆様には多数のお申込をいただき有難うございました。



書道講話 関根玉振副理事長



Aコース午前の部 漢字 加藤矢舟先生



Bコース午前の部 かな 村瀬俊彦先生



Aコース午後の部 近代詩文書 武内峰敏先生



Bコース午後の部 篆刻 日比野妃扇先生



- 修善寺虹の郷
- 沼津御用邸記念公園
西附属邸御殿
- 柿田川公園
柿田川湧水群
- 久能山東照宮

**国内史跡探訪
研修旅行**
(伊豆・駿河の旅)

平成二十七年
八月四日(火)～五日(水)



後方は富士山

国内史跡探訪研修旅行 日程表

日数	月日 (曜日)	旅行内容
①	8月4日 (火曜日)	8時15分 JR名古屋駅西口広場に集合 8時30分 貸切バスにて名古屋高速自動車道・名古屋第二環状道路、東名高速道路を利用して静岡市内へ ※途中、サービスエリアにてトイレ休憩(1回) 11時45分 エスパルスドリームプラザ内のジョーズ・キッチン(旧名バイキングガーデンペルージュー35)での“休日ランチバイキング”の昼食 12時50分 清水港に到着 着後、西伊豆への最短ルート、駿河湾フェリーで土肥へ 14時25分 土肥港に到着 着後、貸切バスにて一般道を利用して歴史ある湯の街・修善寺へ 15時30分 自然と文化をテーマにした「修善寺虹の郷」に到着 着後、四季折々の自然、咲き誇る花、古き良き時代のイギリス文化などを自由に散策 17時30分 中伊豆の名湯・伊豆長岡温泉ニュー八景園に到着 着後、懇親夕食会までの間は入浴など自由行動 18時30分 宴会場にて懇親夕食会 夕食後、解散 (伊豆長岡温泉：ニュー八景園泊)
②	8月5日 (水曜日)	7時00分 宴会場にて朝食 8時30分 貸切バスにて一般道を利用して駿東へ 8時55分 潮騒がいざなう皇室の香り「沼津御用邸記念公園」に到着 着後、近代日本の歴史の一端を語りかけてくれる貴重な文化遺産である西附属邸御殿内部を参観 10時25分 「柿田川公園」に到着 着後、日本の名水百選・21世紀に残したい日本の自然百選に数えられる富士山の湧き水が流れる「柿田川湧水群」を参観 11時05分 東名高速道路を利用して日本平へ 12時30分 富士山や伊豆半島が駿河湾越しに見られる日本平に到着 着後、月日星にて“握り寿司膳”の昼食。その後にロープウェイを利用して御鎮座400年を迎える久能山東照宮へ 着後、社殿・博物館を参観。その後に再びロープウェイにて日本平へ 15時30分 貸切バスにて東名高速道路、伊勢湾岸自動車道、名古屋高速自動車道を利用して帰路へ ※途中、サービスエリアにてトイレ休憩(1回) 19時00分 JR名古屋駅西口広場に到着、到着後に解散

国内史跡探訪研修旅行を実施して

第一企画部長兼IT部長 横井宏軒

本年度の国内史跡探訪研修旅行は、八月四日(火)～五日(水)に、「伊豆・駿河」へ九十七名の参加者で実施しました。国内史跡探訪研修の目的は、知識の修得、情報の収集および会員相互の親睦、連携を図ることです。

最初の目的地の「修善寺虹の郷」へは、清水港から駿河湾フェリーに乗船し土肥港経由で行きました。同園は、修善寺温泉の中心から一・五kmほど離れた山稜にあり、園内にはイギリス村、カナダ村などのテーマで施設および日本庭園が設けられています。この二つの村の間にはミニ鉄道が敷かれ、園内には庭園や花壇が多く、季節ごとの花々を楽しめました。敷地面積は東京ディズニーランドとほぼ同じ五十万平方メートルで、広大な敷地の中で、日本の美しい自然と外国の雰囲気味わえました。

伊豆長岡温泉に宿泊し二日目は、次の三箇所を研修しました。

「沼津御用邸記念公園」沼津御用邸は、明治二十六(一八九三)年、大正天皇(当時は皇太子)のご静養のために造営されました。当時、このあたり一帯は小さな漁村でしたが、気候が温暖なうえ、前面には駿河湾、背後には富士山という風光明媚な地であることから別荘地として注目されはじめ、明治政府の高官なども別荘を建てていました。

「柿田川湧水群」柿田川は、狩野川水系

の一級河川である清流として有名で、この柿田川公園の『わき間』から始まっています。柿田川は、名水百選にも選ばれる全長約一・二kmの清流で、湧水量は日に七十万トンから百万トン程度で東洋一を誇っています。水温は、一年を通して約十五度前後で安定しており、またミシマバイカモなどが有名です。「柿田川湧水群」には、自然の大きさや力強さというものを実感させられました。

最終目的地の「久能山東照宮」へは、日本平からロープウェイで行きました。久能山東照宮は徳川家康が元和二年(一六一六年)に死去した後、遺命によってこの地に埋葬されました。二〇一〇年(平成二十二年)十二月に、本殿・石の間・拝殿が国宝に指定され、久能山東照宮博物館には、国宝「太刀 銘真恒」、スペイン国王から家康公へ贈られた「洋時計」(ゼンマイ仕掛けの時打付時計として現存する日本最古のもの)など、国宝一件、重文刀剣十三件、重文甲冑三件、重文徳川家康関係資料七十二種など二千余点を数えます。

今回の国内史跡探訪研修旅行は、例年がない猛暑の中での研修旅行でしたが、スケジュールどおりの日程で実施、無事に予定時間より早く名古屋駅に到着解散することができました。参加者をはじめ多くの方々にご協力いただき、無事に終えることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

国内史跡探訪研修旅行参加者名簿

研修旅行役員

顧問 樽本 樹邨
名誉会長 安藤 滴水
理事長 伊藤 昌石
副理事長 関根 玉振
事務局長 関根 玉振

二号車

号車長 伊藤 昌園
◎安藤 滴水
◎伊藤 昌石
伊藤 虹川
伊藤 昌郷
伊藤 静雅
伊藤 艸亭

三号車

号車長 大河戸 柳光
◎太田 偕風
浅井 紅鶴
△石原 馨風
◇伊藤 均
猪又 松峰
長田 正嗣
長田 裕華
勝海 芝香
加藤 翠雲
加藤 翠林
近藤 英志
酒井 光華
◇佐々木 宏明
諏訪部 菜華
○武山 翠屋
谷村 洋恵
◇東倉 元彦
△中川 貴舟
西垣 美茜
西富 峯子
則武 穹
○古川 昇史
本間 翠眉
水田 美泉
○村瀬 俊彦
毛利 恵風
森 京華
○山内 江鶴
△山口 律舟
山路 静竹
△山田 杏華
吉井 子雪

一号車

号車長 荒川 恵風
樽本 樹邨
○鬼頭 翔雲
○関根 玉振
○飯田 瑤華
△井口 方燕
磯谷 凄聴
◇岩田 緑汀
○梶山 盛涛
△上小倉 積山
神谷 緑泉
黒川 虚宇
△小島 瑞柳
○後藤 春洋
○佐藤 慶雲
下村 汀柳
庄田 華鳳
白井 景星
鈴木 美豊
関根 玉翠
世古口 大虚
高桑 嚴風
寺尾 桑林
中川 瑞風
林 大樹
福岡 林泉
○山際 雲峰
○横井 宏軒
岡田 明洋

伊藤 樹邨
伊藤 滴水
伊藤 昌石
伊藤 虹川
伊藤 昌郷
伊藤 静雅
伊藤 艸亭
伊藤 樹邨
伊藤 滴水
伊藤 昌石
伊藤 虹川
伊藤 昌郷
伊藤 静雅
伊藤 艸亭
伊藤 樹邨
伊藤 滴水
伊藤 昌石
伊藤 虹川
伊藤 昌郷
伊藤 静雅
伊藤 艸亭

伊藤 樹邨
伊藤 滴水
伊藤 昌石
伊藤 虹川
伊藤 昌郷
伊藤 静雅
伊藤 艸亭
伊藤 樹邨
伊藤 滴水
伊藤 昌石
伊藤 虹川
伊藤 昌郷
伊藤 静雅
伊藤 艸亭
伊藤 樹邨
伊藤 滴水
伊藤 昌石
伊藤 虹川
伊藤 昌郷
伊藤 静雅
伊藤 艸亭

◎印：研修旅行役員 ◇印：記録 ○印：名誉顧問・常任顧問・顧問・理事・監事 △印：企画委員 ◇印：協賛会員

1号車

岩田 緑汀

八月四日朝、一号車は元氣印で名古屋駅を出発です。東名高速道路を利用し、静岡へ。車窓には茶畑が続きます。清水港に到着後駿河湾フェリーに乗船し、駿河湾を横断です。デッキからは、白い波飛沫があがる度に小さな虹が続いたり、魚の群れが見えたりと、潮風を感じながらの約一時間のクルージングでした。

今度は木々の中、海から山へとバスを走らせて、東京ドーム十個分の広さの「修善寺虹の郷」に到着です。入場ゲートをくぐるとすぐにイギリス村のお迎えです。建物は古き良きイギリスを再現しています。この広大な園内を、どういうコースでと、私達は、イギリス村からカナダ村までを結ぶSLで往復するコースを選びました。自然の景色を眺めながら往復二十分のSLでの小さな旅を体験しました。

今回の宿は伊豆長岡温泉。楽しい懇親夕食会。カラオケ大会では、福岡林泉先生が一号車代表です。歌も半ばを過ぎた頃、宿の方が紛争して仲間入り。「ザ・宴会」です。会の締めは榎本先生による「昴」。会員の方も、一緒に大合唱となりました。

翌五日、朝食会場に入ると大きな窓から「富士山」が見えました。夏の富士山は山頂に雪もほとんど無く、いつもと違う表情でした。

その後、「沼津御用邸記念公園」の西附属邸内部を参観。建物は質素なイメージですが使われている素材は吟味され造作も手

が込んで、家具、備品も興味深いもので、松林に囲まれて、素晴らしい空間でした。

次に「柿田川公園」に到着。富士山の湧水が流れる柿田川湧水群では、わき間が見え、絶え間なく水が噴き出し、モコモコとまるで生き物のようです。自然の力でリフレッシュできました。水飲場では、ペットボトルに水を汲んで持ち帰りました。

その後日本平に到着。葵の御紋がラッピングされたロープウェイで駿河湾を眺めながらの空中散歩の後、国宝久能山東照宮へ。

権現造、総漆塗、極彩色のあざやかさに、石段百段登ってきた暑さも疲れも吹き飛びました。

帰路のバスでは、当日が誕生日、しかも還暦の磯谷凄聡先生のサプライズ誕生会。ハッピーバースデートゥユーの大合唱でお祝いしました。

今回の旅は、貸切バス、フェリー、SL、ロープウェイと多くの乗り物を満喫。自然の力を感じながらの、楽しさノリノリの研修旅行でした。



虹の郷 イギリス村にて



懇親会のカラオケ大会



サプライズ誕生会!!



「昴」を大合唱

2号車

近藤 梅鶯

旅行当日は快晴に恵まれ、朝から陽光が照りつける中、車内の涼しさに一息つき定刻通り八時三十分の名古屋駅を出発しました。二号車には安藤副会長、伊藤理事長はじめ幹部の先生方がご同乗され参加者三十四名はビールやお茶で水分を補給し、和気藹々と一路清水港へ伺いました。

昼食後、清水港から土肥に移動するフェリーから残念ながら富士山の眺望は叶いませんでしたが、バスの狭さから解放され一時間余の航海をのんびり過ごしました。修善寺は緑が多く木洩れ日が車内に注ぎ暫く暑さを忘れ、「虹の郷」では各々広い園内を散策しました。

今夜の宿「ニュー八景園」に着き、まず温泉で汗を流し懇親夕食会開始。例年の如く大変盛り上がりました。二号車から宇門会の若い先生お二人がカラオケに飛び入りで参加、「絆」を唄われ大好評でした。部屋に戻ると、伊豆長岡の花火が綺麗に見え満足して就寝しました。

二日目は、澄み渡る空気の中車窓に現われる富士山に先生達の歓声が上がります。「沼津御用邸」に向かいました。前に駿河湾、後に富士山という風光明媚な土地に自然と調和して建つ御用邸の一部を暫く現実を忘れて拝見しました。帰り道、梅檀せんだんの木があつて二号車の先生が一葉摘まれ「梅檀は双葉より芳し」の言葉通りか香りを確かめました。次に訪れた「柿田川公園」も富士の伏流



虹の郷の正面の建物

水が湧き上がり梅花藻が水中で揺れ、国道一号線の隣に癒しの空間が広がります。この自然を守る為に地域の住民が絶大な尽力を傾けていることを聞き頭が下がりました。日本平からも富士山を望み、ロープウェイで久能山に登り、静岡唯一の国宝で、ほぼ創立当時の姿が残る「久能山東照宮」を暑さの中、汗をかきかき社殿に手を合わせました。「東照宮博物館」で刀剣や甲冑などの宝物を見学しすべての予定を終えました。

霊峰富士山のエネルギーを十分に満喫し、歴史を訪ねた研修旅行を終え無事に帰路につきました。リラックスして交流が出来た旅行を企画して下さい有り難うございました。



沼津御用邸の前で



修善寺虹の郷
イギリス村からカナダ村を結ぶカンブリア号



東照宮楼門に登る（後水尾天皇が書かれた扁額がかかる）



柿田川公園で湧水をのむ

3号車

中川 貴舟

本年の史跡探訪研修旅行は、片道船上コースとなっているところがある為、出航時間を気にしながらの出発となった。途中休憩を入れながらも、時間迄に昼食会場到着。

ランチバイキングでしたが、メニューも豊富で、皆さんそれぞれに至福の一時を過ぎられ清水港に向う。西伊豆への最短ルート、駿河湾フェリーで土肥港へ。天候が良ければ雄大な富士山が一望との事でしたが、今日は雄姿が見えなかった。湾航海では、信号で止まる事もなく快調に目的地土肥港へ。

通過する土肥は金、湯が出たり、又まほろしの白ビワ、そして直径三十一メートルもある花時計、一獲千金を夢み、金採集も出来るとか、ガイドさんの説明を聞きながら、土肥峠を通過して、修善寺虹の郷に着く。自然と文化をテーマに、四季折々の草花、伝統工芸の匠の村、イギリス、カナダの街並み。広大な敷地と暑さでゆっくり廻る事は出来なかったが、訪れた事のない国の文化、伝統に少し触れられた。蝉の鳴き声に送られ、お宿、中伊豆の名湯長岡温泉、「ニュー八景園」へ。一休みの後、いよいよ懇親会、新理事長役員の先生のご挨拶乾杯で始まり、恒例のジャンケン、ビンゴ、カラオケ大会となり、三号車は成績優秀、山田社中は特別賞三連覇の健闘、会場が最大の盛り上がりとなり、つきぬ楽しい一時も終了の時間となりました。

二日目、なんと今朝は富士山が望めました。富士をバックに記念撮影を済ませて、最初の参観「沼津御用邸記念館」へ向かう。明治二十六年に造営され三代の天皇がご静養なされ、廃止後記念公園として、一般の参観が出来る様になったと説明がありました。日本家屋の佇まい、三保の松原から続くと言われる松並木、遠くより聞こえる小波、知らない世界を垣間見る事が出来た。次の見学地、柿田川公園、名水、自然百選に認定されている「柿田川湧水群」を真上から見学、この美しい自然が、目に見えぬ奉仕のある事等を知り、眺めていると暑さも忘れ、吸い込まれる様な崇高な気分になった。湧水群を後にバスは日本平昼食会場へ。食後、「久能山東照宮」へと向かう。

山頂へは、歩いて登るコースもあるらしいが、日本平からのロープウェイで山頂へ。切り立った絶壁屏風の眺望、眼下に広がる海原を見渡し山頂に到着。国宝「東照宮」を参拝。「人はただ身に程を知れ、草の葉の露も重くは落つるものかな」御遺訓に一考する。そして博物館。すべての見学終了。

初日出発車中にて、理事の先生ご挨拶に、アットホームな旅にしましょう。そして二日目名誉顧問の先生のご挨拶、伝統文化を学ぶ事が出来……。楽しく有意な旅が、無事終わりました事、大変嬉しく思いました。



3号車 車内にて



3号車 車前にて



カラオケ大会 三連覇の山田社中

平成27年度 公益社団法人 中部日本書道会 第24回 壽 書 展

70才以上の方を対象にご長寿をお祝いし、益々のご健勝を祈念して開催致します。
ご高覧下さい。

会 場：電気文化会館（5階 東・西ギャラリー） 会 期：平成27年11月17日(火)～11月22日(日)
名古屋市中区栄2-2-5 午前10時～午後5時(最終日は午後4時まで)

主 催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社
後 援：愛知県教育委員会・岐阜県教育委員会・三重県教育委員会・名古屋市教育委員会

第19回 書の魅力 公開講座
日時 平成27年11月22日(日) 午後1時 会場 電気文化会館5階 イベントホール

◇出品者名

- | | | | | | |
|--|---|---|--------------------------|------------------|-------|
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 俊樹 | 磯和 鴻東 | 鬼頭 城山 | 藤原 郁代 | 熊崎 北咏 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 久米 義山 久原 佳子 亀井 幡川 | 清田 芳園 | 堀場 錦城 | 黒野 翠雲 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 工藤 茜邑 待田 康苑 本田 秀岳 | 小池 理一 | 江崎 重子 | 渡邊 翠芳 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 松田 晴風 齋藤 翠苑 小林 稚泉 | 加藤 紫公 | 江崎 重子 | 渡邊 翠芳 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三輪 晴風 坂井 虹輝 高木 賀代 | 永田 正毅 | 坂 信子 | 水野 笑子 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 酒井 麗月 森 京華 桃井 祥谷 村瀬 竹風 三輪 盈夫 榊原 悠園 | 宗林 翠徑 三治 涛星 佐野 李暉 佐々木 博山 | 安井 包子 神谷 嘉子 中村 肇 | 服部 明 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 志水 玉華 酒瀬川 香風 酒井 麗月 森 京華 桃井 祥谷 村瀬 竹風 三輪 盈夫 榊原 悠園 | 宗林 翠徑 三治 涛星 佐野 李暉 佐々木 博山 | 安井 包子 神谷 嘉子 中村 肇 | 服部 明 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 志水 玉華 酒瀬川 香風 酒井 麗月 森 京華 桃井 祥谷 村瀬 竹風 三輪 盈夫 榊原 悠園 | 宗林 翠徑 三治 涛星 佐野 李暉 佐々木 博山 | 安井 包子 神谷 嘉子 中村 肇 | 服部 明 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 志水 玉華 酒瀬川 香風 酒井 麗月 森 京華 桃井 祥谷 村瀬 竹風 三輪 盈夫 榊原 悠園 | 宗林 翠徑 三治 涛星 佐野 李暉 佐々木 博山 | 安井 包子 神谷 嘉子 中村 肇 | 服部 明 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 志水 玉華 酒瀬川 香風 酒井 麗月 森 京華 桃井 祥谷 村瀬 竹風 三輪 盈夫 榊原 悠園 | 宗林 翠徑 三治 涛星 佐野 李暉 佐々木 博山 | 安井 包子 神谷 嘉子 中村 肇 | 服部 明 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 志水 玉華 酒瀬川 香風 酒井 麗月 森 京華 桃井 祥谷 村瀬 竹風 三輪 盈夫 榊原 悠園 | 宗林 翠徑 三治 涛星 佐野 李暉 佐々木 博山 | 安井 包子 神谷 嘉子 中村 肇 | 服部 明 |
| 渡邊 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 三神 堀場 藤井 早川 中村 寺田 田中 武山 佐野 佐々木 近藤 権田 倉重 落合 今井 安藤 平松 中林 土屋 後藤 黒野 黒田 安藤 樽本 海部 | 志水 玉華 酒瀬川 香風 酒井 麗月 森 京華 桃井 祥谷 村瀬 竹風 三輪 盈夫 榊原 悠園 | 宗林 翠徑 三治 涛星 佐野 李暉 佐々木 博山 | 安井 包子 神谷 嘉子 中村 肇 | 服部 明 |

（お詫び）
前号会報一七七号に誤りがありましたので訂正いたします。
平成二十七年十一月十七日(火)～二十三日(日)

（順不同）
10月19日現在
伊藤 正美
内山 香鈴
加藤 恵雲
御崎 勲
寺尾 洌

第66回 中日書きぞめ展作品募集

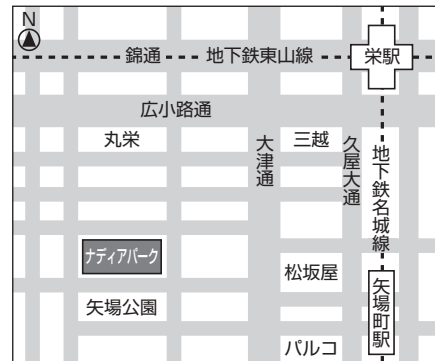
◆会 期 平成28年3月20日(日)・21日(月・祝)

20日(日) 午後1時～午後6時

21日(月・祝) 午前10時～午後6時

◆会 場 ナディアパーク2F アトリウム

名古屋市中区栄3丁目18番1号



◆授賞式 平成28年3月21日(月・祝) 午後2時 ナディアパーク3F デザインホール

- ◆褒 賞 文部科学大臣賞、愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市長賞、
愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋市教育委員会賞、中日書道会賞、中日新聞社賞、
東海テレビ放送賞、中部日本放送賞 (以上申請中)、記念賞、名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞、
特選、準特選、秀逸、佳作、入選

※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。

◆資 格 幼年・小学生・中学生・高校生

◆課 題 自由 — 参 考 —

幼年 う た・いのち	小4 自然の美・生命の力	中2 友好を深める・地球大交流
小1 みらい・みどり	小5 夢の大地・世界交流	中3 新技術開発・友好提携
小2 ふれあい・心のとも	小6 地域開発・友情の輪	高校 墨の祭典・環境の美化
小3 生きる力・町の美化	中1 未来の夢・美しい自然	

◆出品要項 詳しい出品要項が中日書道会本部にありますのでお問い合わせ下さい。

- ◆作 品 ○用紙は、半切1/4 (ハツ切) ※高校生は半切縦も可 ○作品は、表装しないこと。
○書体は、幼・小=楷書、中=楷書又は行書、高校生=自由
○作品には、学年・氏名を必ず明記すること。

◆出 品 料 一点につき400円 (個人出品者は賞品、賞状の郵送料として300円を加算。)

◆搬入締切 平成28年1月15日(金) 午前10時～午後3時 (送付される場合は14日(木)中部日本書道会本部必着でお願いします。)

◆搬入場所 公益社団法人 中部日本書道会 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室 担当 教育部長 後藤啓太 TEL <052> 583-1900 FAX <052> 583-1910

◆取扱所 伊藤大林堂、永楽堂、應天堂、魁盛堂、伽藍、菊屋商店、高誠堂、小松表具店、柴田紙店、新泉堂、 青雲堂、青柳堂、荘文堂、大玄堂、大林堂、長楽斎筆舗、名古屋キョー和、名古屋ハウコドウ、 平野筆墨堂、松屋紙店

主催 公益社団法人 中部日本書道会、中日新聞社

後援 愛知県・愛知県教育委員会、岐阜県・岐阜県教育委員会、三重県・三重県教育委員会、
名古屋市・名古屋市教育委員会、東海テレビ放送、中部日本放送 (申請中)

第三十二回 読売書法展入賞者

(本会会員
関係分)

読売準大賞

(かな)

吉澤 劉石

読売新聞社賞

(かな)

村田 華泉

(調和体)

田中 幸江

福岡 林泉

読売俊英賞

(漢字)

今井 翔山

榎本 照乃

尾崎 翠香

杉浦 仁美

高桑 嚴風

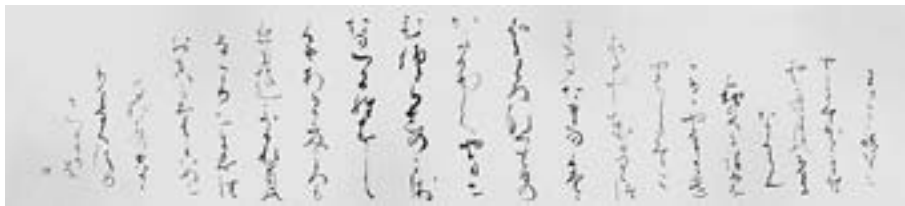
高橋 華堂

竹内 清泉

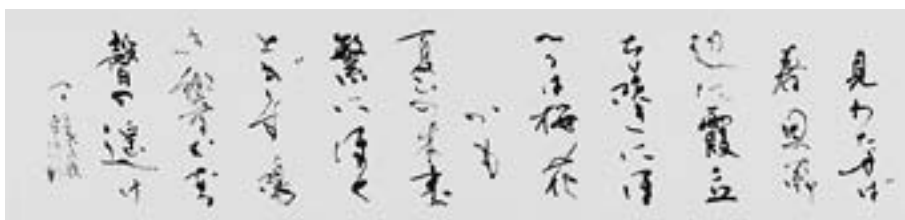
楯 青萌



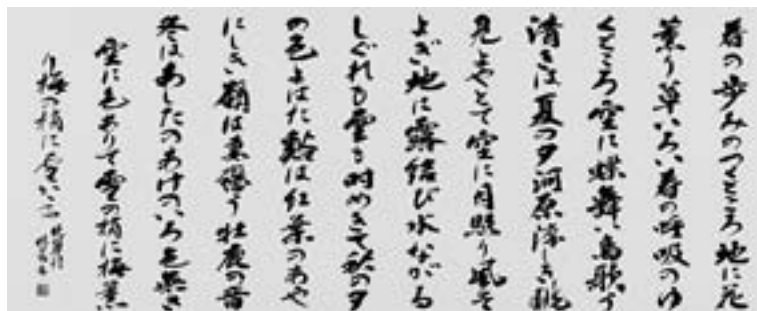
読売準大賞(かな) 吉澤 劉石



読売新聞社賞(かな) 村田 華泉



読売新聞社賞(調和体) 田中 幸江



読売新聞社賞(調和体) 福岡 林泉

〈かな〉 小島 白汀 伊藤 虹川 水野 菜月 吉田八千代

安藤 佳舟 鳥居 竹泉 今村 博嗣 望月 希彩 和田美智子

河村 黄園 中沢 志香 遠藤 紫聖 安田 瞳 伊藤 紅彩

小島 瑞月 菱田 萬峰 遠藤 真人 矢野 彩心 伊藤 紅彩

〈調和体〉 美希 昌風 大岡 祥園 山口 竹汀 太田 累倫

赤堀 正風 安田 翠嵐 大野 樹抱 山添 智加 平 富耀

山中 桂山 伊佐治美芳 大橋 南風 山田 杏華 山本 正良

尾崎 紫光 吉田 桃花 阿知和恵華

加藤 花哇 米津 香柳 伊藤 弥生

板倉 恵子 龜井 杏華 稲吉小夜子 内本 久園

齋藤 禹月 小野田美晴 河合 翠山 井上三保子 大野 蘭香

三間 恵翠 竹内 紫峰 河原崎坡青 小松 翠篁

武山 春陽 成田 尚子 小林 峰玉 宇佐美待月 小松 翠篁

長谷川華香 成瀬 孝子 小林 雅子 大野 妙子 近藤 峻岳

〈かな〉 前田奈津子 近藤 詠谷 大原 律苑 柴田 桃花

梶田 女理 佐藤 清曉 小倉 壽子 南原 宏風

永井 友理 高島 濤翠 清水 裕子 尾崎美恵子 西脇 聖園

〈篆刻〉 永谷加代子 新宮 緑園 加藤 桂子 日比野汀華

石原 清至 鈴木 美豊 小出 誠子 星野 蘭雪

坪井 英哲 佐藤 悦子 堀 恰泉

大畷 露光 米津 美華 富田 華妍 杉江かよ子 松崎 朱實

藤澤 秋嶺 長尾 秀麗 田中 江雨 吉川 紅蓮

野田 春華 永島 育子 吉村佳代子

波多野香葉 橋本 富子

浜島 緑風 花井 竹聲

古田 清流 平野 仁子

石井 玉華 天野 廣衍 松本 紅華 松居 光子

今井 夏虹 石井 瑞鶴 水谷 天風 水野美保子

岡田 愛子 井谷 李春

特選

〈漢字〉 青木 美洲

天野 廣衍

石井 瑞鶴

井谷 李春

秀逸

〈漢字〉

青木 美洲

天野 廣衍

石井 瑞鶴

井谷 李春

第六十七回

毎日書道展入賞者

〔本会会員 関係分〕

毎日賞

〈漢字部Ⅱ類〉 重見 梢玉 大橋 幽徑

棚橋 一葉 堀田 恵香 神谷千恵子

丹羽 彩霞 伊藤 井翠 柴田 厚実 田中 菜摘

岡野 敬子 楯 芳琴 谷利 紫鳳

前田千登世 谷口 大観 平井 華泉

小島 初美 兼子 圭葉 松井香代子 平岡 妙紅 原田 沙季

上松 早苗 須田 白城 宮本 清霞 堀部 汐里

堀尾 岳南 竹内 南里 三輪 三麗 村田 籬香

太田 龍峰 野口 志園 山田 小恵

日下部みゆき 荒木 桃花 横井 吟虹

坂井 虹輝 杉本 扇鈴 竹内 紫燕

深津 洋子 米田 清翠 山岸 邦山

福岡 優慧 藤井 子葉

大沢 真弓 夏目 華星

大橋 卯京 朝井美佐子

小林 恵風

秀作賞

〈漢字部Ⅰ類〉 鈴木 香葉 宮間 秀子

上松 早苗 須田 白城 宮本 清霞

堀尾 岳南 竹内 南里 三輪 三麗

太田 龍峰 野口 志園 山田 小恵

日下部みゆき 荒木 桃花 横井 吟虹

坂井 虹輝 杉本 扇鈴 竹内 紫燕

深津 洋子 米田 清翠 山岸 邦山

福岡 優慧 藤井 子葉

大沢 真弓 夏目 華星

大橋 卯京 朝井美佐子

小林 恵風

U23奨励賞

〈近代詩文書部〉

堀部 汐里

U23新鋭賞

〈近代詩文書部〉

原田 沙季

平成27年度 第19回 書の魅力 公開講座

会員及び一般市民を対象に、中部日本書道会を代表する講師と、現代墨研究家が書の魅力について講演します。

○日時 平成27年11月22日(日)

受付 12:30

開会行事 13:00

第一講座 13:15～14:25

名倉鳳山先生

演題

「硯の文化」

第二講座 14:45～15:35

松下英風先生

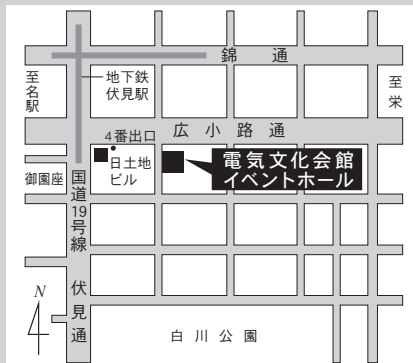
演題

「和様、淡墨の書」

閉会行事 15:35 修了証授与

○会場 電気文化会館 イベントホール (5階) 名古屋市中区栄 2-2-5

主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社 後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会



会員交流

ボウリング大会

12月13日(日) 15:00

懇談会 競技終了後
会場 星ヶ丘ボウル
会費 3,000円(会員外4,000円)
※競技費、懇談費用を含む

申込〆切日 11月13日(金)
本部又は厚生部小島瑞柳まで。

会員外の方も参加出来ますので、
ご友人等おさそい合わせください。
多数のご参加をお待ちしております。
(厚生部)

・第一七八号中日会報を
お届けいたします。
・寒暖差の大きい昨今、
いっ自愛下さい。
(編集部)



あとがき

●本部
伊藤 悠石
●一宮支部
甲斐野美津枝

新入会員紹介
(七・八・九月分)

訃報

心より哀悼の意を表し
ご報告申し上げます。(厚生部)

○7月12日 正会員 鳴田恵紅氏 78才	○8月7日 正会員 小島春美氏 64才
○8月5日 理事 工藤俊朴氏	○8月21日 常任顧問 座馬井邨氏 100才
ご母堂 秋子様 88才	○9月13日 正会員 堀江佳玉氏 60才

社中展・個展のご案内

○第二十一回
大知会系 興文会書展

(併催 第二十二回全国公募展)

代表 伊藤昌石

会期 十一月十日(火)～十五日(日)

会場 電気文化会館五階

(東西ギャラリー)

○陽山会 三十周年記念展

代表 土屋陽山

会期 十二月十五日(火)～二十日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー

(愛知芸術文化センター八階H・I室)

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。
会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。
次号(一月号)は二月中旬から翌年五月中旬までの展覧会を掲載する予定です。
編集部

ホームページアドレス

<http://www.cn-sho.or.jp>

メールアドレス

info@cn-sho.or.jp

支部だより (平成二十七年度 上半期)

一宮支部

●一宮総合美術展

会 期 六月四日(木)～七日(日)
 会 場 一宮スポーツ文化センター
 出品者 一宮支部員四十一名
 主 催 一宮市教育委員会
 一宮市芸術文化協会



一宮総合美術展

一宮市芸術文化協会に所属する書道・日本画・洋画・彫刻立体・デザイン・工芸・写真の、各団体から推薦された作家による、一宮市が誇る総合美術展です。
 一宮支部からは四十一名が出品、全部門総勢百五十一名による大展覧会で、多くの方々に楽しくご観覧いただきました。
 書部門の代表理事を務める当支部は、出

品だけではなく、陳列・会場当番等の協力も行いました。

●第二十二回選抜作品展

会 期 七月十一日(土)～十二日(日)
 会 場 一宮スポーツ文化センター
 出品者 百三名

「おりの感謝祭一宮七夕まつり」に協賛し、一宮書道連盟主催学生書道展の併催展であり、一宮支部として後援しています。

この「選抜作品展」は、支部役員を中心に学生書道展参加指導者も出品し、「読めて、楽しくユニークな小作品」をモットーとしています。

学生書道展と同会場にて開催されるため、ご家族での参観者も多く盛況裡に終了しました。



第22回選抜作品展

半田支部

●第五十一回学童書道展

会 期 七月十一日(土)～十二日(日)
 会 場 半田市福祉文化会館
 出品数 二、三四五点

厳正な審査が支部役員と出品指導者により行なわれ、文部科学大臣賞をはじめ、多くの賞を決定、中国の子供たちの友好作品二十点もあわせて展示された。

本年も会期中たくさんの親子さんたちが来場され、子供たちの作品を一生懸命さがし見つけると、家族で写真を撮っていた。いつもの光景ながら、その様子を見ていると頑張ろうという気持になる。



第51回学童書道展

●寿色紙贈呈

寄贈日 八月二十一日(金)
 寄贈先 半田市、東浦町、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町
 寄贈数 七二〇枚

例年の如く近隣一市五町の高齢者の方々に市・町を通して贈呈する。各首長さんからも、「みなさん大変、楽しみに待っています。」という言葉をいただきました。



寿色紙贈呈

●第四十九回支部展

会 期 八月二十九日(土)～三十日(日)
 会 場 半田市福祉文化会館
 出品数 一三八点

本部より伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長兼事務局長より賛助出品を賜り、加えて中国徐州より五点の友好出品をいただき会場に花を添えていただきました。ここ数年会員の作品も多彩なジャンルにわたり、見応えのある作品展になっていております。



第49回半田支部展

西三河支部

●研究会

日時 三月二十九日(日)
会場 安城市文化センター
参加者 一四四名

会員の皆様が作品を持ち寄り、支部恒例の研究会を開催いたしました。各部門の先生方に細部にわたりご指導いただきました。皆様熱心に聴講され、次のステップに継がる有意義な研究会であったと思います。

勉強の場でもあります研究会にぜひ多くの方々がご参加いただけます。
すよう期待しております。



研究会

●第四十八回支部学生書道展

会期 七月十日(金)～十二日(日)
会場 岡崎市美術館
出品数 五、九六六件

(内高校生三九二点)

入場者 一、五六〇名
毎年テーマを決めての学生書道展。今年

は「自然環境」をテーマに第四十八回展を開催致しました。

(課題)

- 幼年 いけ 一年 くに
二年 かわ 三年 水力
四年 月光 五年 大河
六年 自然 中一 地球
中二 気候 中三 環境

今年から新たに幸田町の後援をいただく事ができ、有りがたく思っております。出品要項から賞品発送迄の五カ月にわたる作業を事務局が一致団結して協力、心より感謝いたします。そして一人でも多くの子供たちが、将来書道に携わってもらえるよう希望し頑張っております。



第48回支部学生書道展



東三河支部

●東三河支部展

会期 六月三十日(火)～七月五日(日)
会場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム二階
出品者 支部会員
出品数 一二四件

本部から伊藤昌石新理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長の玉作を賛助出品していただき、第三十九回東三河支部展を開催しました。新装オープンした豊川市桜ヶ丘ミュージアムは展示室が増え、ゆつたりと落ち着いた雰囲気の中で作品を鑑賞する事ができました。

諸先生方、多くのお客様にご来場いただき、温かいご指導や励ましを賜り、盛会のうちに会期を終えることができました。



支部展風景

●講演会

日時 七月四日(土) 午後三時半
会場 豊橋商工会議所四階
講師 元中日新聞社事業局局長 山口宏昭氏

演題 「体験的ジャーナリズム論」

(「ニュースの読み方」)

講師の山口宏昭氏は豊川市のご出身で、昭和五十二年に京都大学経済学部を卒業後中日新聞社に入社されました。大垣、岐阜、名古屋、東京本社と勤務され、平成二十三年名古屋に戻られ、事業



局長を最後に平成二十七年六月定年退職されました。現在はテレビ愛知取締役専務執行委員を務められています。本講演では、事件記者、特報記者、経済記者としての体験を通して、実際に起こった事件の取材内容をまじえて、メディアとしての新聞が抱える課題や、取材から見えてくる社会が抱える問題について熱く語っていただきました。

●会員集会

日時 七月四日(土) 午後五時半
会場 豊橋商工会議所三階ホール
参加者 九十三名

本部から伊藤昌石新理事長、松永清石副理事長のご臨席を賜り、平成二十七年東三河支部会員集会在盛大に開催されました。

会員集会の中、新しく中日書道会理事長になられた伊藤昌石先生に、東三河支部顧問の寺田樹風先生からお祝いの言葉と記念品が贈られ、会員一同伊藤先生の理事長就任をお祝いしました。

引き続き会員集会議事に入り、平成二十六年度事業報告並びに二十七年年度事業計画、平成二十六年度収支決算報告及び二十七年年度収支予算案について報告がありました。続いて第六十五回中日書道展入賞者が紹介され会員一同拍手でお祝いしました。

その後、松永副理事長による乾杯の御発声で交流会が始まり、盛大で和やかな会員集会になりました。



会員集会 受賞者紹介

濃飛支部

●濃飛支部展

会 期 七月二十四日(金)～二十六日(日)
会 場 恵那市文化センター

伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長に作品を出品して戴き花を添えて戴きました。会員とその他の方にも出品して戴き総点数は三十九点でした。入場者は二百名程で熱心に参観して戴きました。今年度は観て戴く方にわかり易い様積文をつけました。



濃飛支部展

●支部集会・講演会・交流会

日 時 七月二十六日(日)
支 部 集 会

会 場 恵那市文化センター
本部より横井宏軒先生、佐野翠峰先生に來賓として御出席戴きました。お忙しい中、有難うございました。



支部集会

平成二十六年事業報告、収支決算報告があり承認されました。続いて二十七年事業計画案、収支予算案が提案され承認されました。次に役員改選案が承認されました。

講演会

会 場 恵那市文化センター

講 師 徳川美術館学芸部長

演 題 「文房至宝 墨を中心に」
四辻 秀紀 先生

徳川美術館の古墨コレクションを中心

に映像で説明しながらお話をしてくださいました。文人のたしなみとしての文房至宝は風雅をたのしみ精神性を高めるため贅の限りをつくしたすばらしいものであった様です。

交流会

会 場 恵那峡グランドホテル

乾杯のあとたんぼの里のみなさんによる太鼓演奏がありました。障害を持った方達の真剣な演奏に涙がこみ上げて来ました。本部の先生方や会員の皆様との交流も出来、楽しい一時を過ぎて戴きました。



交流会

北勢支部

●北勢支部展

会 期 七月十八日(土)～二十日(月・祝)
会 場 四日市市民文化会館第三展示室

出品数 九十八点

本部からは伊藤昌石理事長、関根玉振副理事長、松永清石副理事長の特別出品を頂き、北勢支部会員の力作と会員外の方の出品作品を展示、今年二月の伊勢型紙講習会での作品も併せて展示し、来場された方々に幅広い作品の数々を楽しんで頂けた事と思えます。

●支部集会・講演会

日 時 七月十九日(日)

会 場 四日市市文化会館第三ホール

支部集会

本部より関根玉振副理事長、横井宏軒第一企画部長、上小倉積山第二企画部長をお迎えし、平成二十六年事業報告、収支決算報告、二十七年事業計画案、予算案が承認されました。



支 部 展

講演会・懇親会
集会後、同会場で講演会が行われました。

講 師 関根玉振副理事長
演 題 「篆書の魅力
～書いて遊びましょう～」

参加者 八十名



篆書は書くだけではなく文字の起源も一緒に楽しく勉強できるといふ幾つかの例と、偏と旁に動きのある「呉昌碩の石鼓文」を推奨された事で、篆書の勉強の入り口を関根先生に導いてもらうことができました。

その後の揮毫では、リズムカルな運筆、同じ太さでありながら線の力強さ、線の切れ味に変化のある作品を見せて頂きました。

篆書世界へ引き込まれ興味をもった多くの参加者が、その後楽しく篆書を書いて遊びました。

講演会後プラトンホテルに移動して懇親会が行われ、最後に、関根先生が書かれた額入りの小作品の抽選会があり大変楽しい一時となりました。



講 演 会

中南勢支部

●研修旅行

日時 五月十七日(日)
場所 京都花園・太秦東映映画村
参加者 四十六名



研修旅行

初夏の日差しがまぶしい日、京都花園を訪れた。太秦東映映画村は、人気時代劇の背景。一つの映画の撮影が、劇場やテレビに流れるまでに、その準備や多数の俳優、演出家、脚本家、衣装、メイク、道具や裏方の工夫の数々は、創作への道筋の遠さ、深さ、広さを思わせる。中でも、歴代映画のポスターがズラリと並び、その題字は昨今の新作テレビドラマには比較にならない格調の高さだ。今回の研修では、団扇に書や絵を興じる時間も大いに楽しめた。午後

は散策。移動して臨済宗大本山妙心寺に参詣。目を見張る荘重なたたずまいの中、天井の雲竜図、塔頭退蔵院では元信の枯山水、水琴窟など。歴史に刻まれた遙かな文化の奥行にしばし心がつつまれ安らぎの時間となった。

●支部集会・講演会・懇親会

日時 十月十一日(日)
会場 津アストビル・アストホール・みやび支部集会

本部より伊藤昌石理事長、関根玉振副理事長の、ご臨席を賜り支部集会・講演会を開催致しました。平成二十七年年度の事業報告・会計収支決算の中間報告がなされました。

講演会・懇親会

講師 花井嶺郎氏
演題 「気になる言葉——心を高め

心を癒す珠玉の言葉——」
花井嶺郎先生のご講演は大変すばらしく受講者一同真剣に聴き入りました。仕事で磨かれ、読書で磨かれ、人によって磨かれる、人の心の在り方が、温かい言葉で語られ、何十冊もの本の貴重なエッセンスを吸収出来た充足感がありました。その後場所をアスト津二階の「みやび」にかえて、懇親会を行いました。和気藹々、楽しい一時となりました。



講演会

岐阜支部

●支部集会・講演会・交流会

日時 五月三十一日(日)
会場 岐阜会館
支部集会

出席者 七十八名
本部より関根玉振副理事長、横井宏軒第一企画部長兼IT部長のご臨席を賜り、平成二十七年年度支部集会を開催しました。

平成二十六年度の事業、収支決算報告及び二十七年事業計画(案)並びに収支予算案について審議され滞りなく承認されました。

講演会・交流会

講師 (株)一休園代表取締役会長
久保田哲暁氏

演題 「筆のこといろいろ」
参加者 七十名

久保田哲暁先生は、伝統工芸品熊野筆指定産業者である一休園を継がれ、四十四年目となられ、現在取締役会長をなさっています。筆の原料は原毛と筆管であり、原毛から説明



支部集会



書道講演会

をされ、筆は冬毛、みめもよし、——(枕草子より、冬毛が良いとの意)冬毛は密生して最適だそうです。
原毛の種類は狸毛、馬毛、イタチ毛、ねこ毛、鹿毛等々あり、その筆の性質、見分け方、筆のおろし方等、そして筆の特徴等々を解説、専門的で奥の深い筆の全てを解り易くご講義を賜りました。

●岐阜支部会員展

会期 九月十一日(金)〜十三日(日)
会場 岐阜市民会館
参加者 二五九名

本部より、伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長の玉作を拝借し、会場に花を添えて戴きました。年々若年層の作品も増え、又、料紙の色彩も豊かに、多種多様な作品の数々をすっきりと展示することが出来ました。回を重ねる度に作品もレベルアップし、出品者一同、次回は更なる研鑽を胸に、観賞したと思われま



支部会員展